

# 日本家庭科教育学会 第 50 回 大会 プ ロ グ ラ ム

2 0 0 7

6 月 2 9 日 ( 金 ) ~ 7 月 1 日 ( 日 )

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1 Tel: 03(3467)7201(代表)

6 月 29 日 ( 金 )		6 月 30 日 ( 土 )				7 月 1 日 ( 日 )			
9:30	受 付	8:30	受 付			8:30	受 付		
10:00	評議員会  402	9:00	口 頭 発 表			9:00	口 頭 発 表		
11:30		12:00	第 1 会場 417	第 2 会場 401	第 3 会場 402	11:00	第 1 会場 417	第 2 会場 401	第 3 会場 402
11:30		12:00	昼 食			ポ ス タ ー 展 示  416	11:10	ポスター発表 (~ 12:30)	
12:50	12:20 ~ 受付	12:50	昼 食				11:10	新旧役員会 (~ 12:00)	402
13:00	50 周年 記念式典 417	13:00	総 会  417			12:50	昼 食		
14:00	シンポジウム 「家庭科教育 の継承と発展」  417	14:00	トークセッション 「家庭科のここがおも しろい」(重松 清氏) 417			13:00	課 題 研究 2	課 題 研究 3	ワーショ ップ
16:30		16:00	課 題 研究 1	ワーショ ップ	ワーショ ップ	13:00	高 校 必 履 修	批 判 的 思 考 力	参 加 型 学 習
17:00	50 周年記念 祝 賀 会  国際交流棟 レセプションホール	18:00	生 活 を つ く る	フ ー ト ・ マ イ レ ー ジ	幼 児 と 関 わ る	15:00	417	401	402
19:00		18:00	417	401	402	15:10	ラ ウ ン ド ・ テ ー ブ ル	ラ ウ ン ド ・ テ ー ブ ル	ラ ウ ン ド ・ テ ー ブ ル
<p style="text-align: center;">( 数字はセンター棟室番号 )</p>									
<p style="text-align: center;">*1 企画ポスター展 (50 年活動史) 6 月 30 日 9:00 ~ 7 月 1 日 15:00</p>									
<p style="text-align: center;">*2 ポスター発表展示 6 月 30 日 12:50 ~ 7 月 1 日 15:00</p>									

評 議 員 会 6 月 29 日 ( 金 ) 10:00 ~ 11:30  
50 周年記念式典 6 月 29 日 ( 金 ) 13:00 ~ 13:50  
50 周年記念祝賀会 6 月 29 日 ( 金 ) 17:00 ~ 19:00  
新 旧 役 員 会 7 月 1 日 ( 日 ) 11:10 ~ 12:00

センター棟 402 室  
センター棟 417 室  
国際交流棟 レセプションホール  
センター棟 402 室

2007年5月10日

日本家庭科教育学会会員各位  
会員所属機関所属長殿

日本家庭科教育学会  
会長 佐藤文子

第50回日本家庭科教育学会大会のご案内

薫風の候、皆様方にはますますご清栄のことと存じ上げます。

さて、日本家庭科教育学会では第50回大会を下記の通り開催いたします。会員各位の参加により、充実した研究交流と教育についての情報交換が行われますことを期待しております。

所属機関におかれましては、会員の大会参加にご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

大会要項

**大会テーマ** 家庭科教育の継承と発展

くらしをみつめ、くらしを豊かにする学びをとおして -

**1. 期 日** 2007年6月29日(金)～7月1日(日)

**2. 会 場** (独立行政法人)国立オリンピック記念青少年総合センター -

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号 03(3467)7201(代表)

**3. 日 程**

**第1日 6月29日(金)**

10:00～11:30 評議員会

13:00～13:50 50周年記念式典

14:00～16:30 シンポジウム「家庭科教育の継承と発展 くらしをみつめ、くらしを豊かにする学びをとおして」

17:00～19:00 50周年記念祝賀会

**第2日 6月30日(土)**

9:00～11:50 研究発表

13:00～13:50 総会

14:00～15:50 トークセッション「家庭科のここがおもしろい！」

16:00～18:00 課題研究 第1セッション「生活をつくる家庭科の学び - ブックレットシリーズを通じて何を伝えるか - 」

ワ - クショップ 「フードマイレージを利用した食育」

ワークショップ 「幼児とうまくかかわる技を磨く」

### 第3日 7月1日(日)

- 9:00～11:00 研究発表
- 11:10～12:30 ポスタ - 発表
- 11:10～12:00 新旧役員会
- 13:00～15:00 課題研究 第2セッション「家庭科が育てる力を探求する -  
高等学校男女必修の成果に関する生徒・社会人・教師への全国調査から - 」
- 課題研究 第3セッション 「家庭科教育における 判的思考力の育成」
- ワ - クショップ 体験的「参加型学習」入門 - ジェンダーを  
テーマとして -
- 15:10～17:10 ラウンドテーブル 「食の学びを再構築する - これまでとこれから - 」
- ラウンドテーブル 「生活のスキルを育む - もの、人との関係を築く - 」
- ラウンドテーブル 「授業研究のあり方を探る - 子どもの変容に注目して - 」

6月30日9:00 ～7月1日15:00 [ポスターによる50年の学会活動史]

#### 4. 参加費

( )内は当日参加費

正会員	5,000円(6,000円)	学生会員	3,000円(3,500円)
非会員	6,000円(7,000円)	学生非会員	3,500円(4,000円)
非会員の1日のみ参加費 2,000円・・・資料代は別途			
祝賀会	5,000円		

#### 大会事務局

吉原崇恵(静岡大学)

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学教育学部

Tel & Fax: 054-238-4690 e-mail: [ejtyosi@ipc.shizuoka.ac.jp](mailto:ejtyosi@ipc.shizuoka.ac.jp)

#### 日本家庭科教育学会事務局

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 日本教育研究連合会内

・Fax 03(3942)7885(事務は火・木)

## 研 究 発 表

### 【口頭発表】

(発表番号のAは第2日目、Bは第3日目)

**【6月30日 午前】 9:00～11:45 第1会場(417)**

**座 長 桑畑 美沙子**

- |        |  |                            |                |
|--------|--|----------------------------|----------------|
| A1 - 1 | 戦後初期学校放送「家庭科学」にみる家庭生活の民主化 - 和田精『劇で学ぶ家庭科 明るいわが家』の検討 - | 天使大学北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程   | 青木 香保里         |
| A1 - 2 | 新出資料による 1949～50年の小学校家庭科存廃論再考                         | 広島大学大学院教育学研究科              | 柴 静子           |
| A1 - 3 | 「ことば」の伝わりにくさに気づく教材開発と授業の展開                           |                            | 大西 友恵          |
| A1 - 4 | 家庭科の授業における説明 小学校家庭科での授業観察から -                        | 宮城教育大学教育大学<br>宮城県涌谷町立笹岳小学校 | 中屋 紀子<br>菅原 京子 |

**座 長 渡瀬 典子**

- |        |   |   |   |
|--------|---|---|---|
| A1 - 5 | トピック学習による家庭科の学び   | 東京家政大学家政学部  | 青木 幸子   |
| A1 - 6 | 家庭科授業の理解を図る教育法プログラムの検討                                    | 新潟大学教育人間科学部   | 高木 幸子   |
| A1 - 7 | 教員養成における模擬授業の効果的なあり方の検討                                   | 横浜国立大学教育人間科学部   | 堀内 かおる  |
| A1 - 8 | 教育現場のニーズに応える家庭科教員養成のためのカリキュラムの再構築 - 高等学校家庭科教師の意識調査からの検討 - | 兵庫教育大学大学院学校教育研究科<br>和歌山大学教育学部<br>京都教育大学教育学部<br>奈良教育大学教育学部<br>神戸女子大学家政学部<br>大阪教育大学教育学部<br>滋賀大学教育学部 | 永田 智子<br>赤松 純子<br>榊原 典子<br>鈴木 洋子<br>中井 昌子<br>野田 文子<br>矢野 由起 |

**座 長 小川 裕子**

- |         |                           |                                  |                |
|---------|---------------------------|----------------------------------|----------------|
| A1 - 9  | PISA, DeSeCo にみる今日的学力と家庭科 | 福井大学教育地域科学部<br>福井大学大学院教育学研究科(院生) | 荒井 紀子<br>塚倉 知美 |
| A1 - 10 | フィンランドに学ぶ家庭科における特別支援教育の方向 | 広島大学大学院教育学研究科<br>くらしき作陽大学(非)     | 伊藤 圭子<br>福田 公子 |

A1 - 11	教員調査から見た日本人学校における消費者教育	東京学芸大学大学院(院生) 東京学芸大学教育学部	田村 愛架 池崎喜美恵
<b>[6月30日 午前] 9:00~11:45 第2会場(401)</b>			
<b>座長 鳥井 葉子</b>			
A2 - 1	消費者教育における指導法の検討 - 家庭科教育に参加型学習を導入した授業実践 -	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科(院生)	神山 久美
A2 - 2	生活力に繋がる消費者教育実践の検討	鳥取県立岩美高等学校 鳥取大学地域学部	山口 京子 小林 陽子
A2 - 3	家庭科における「生活と睡眠」の学習に関する研究(第1報) - 教師の「生活と睡眠」の現状と認識 -	滋賀大学教育学部 滋賀大学教育学部 滋賀大学大学院教育学研究科(院生)	田中 宏子 山崎古都子 高井 美沙
A2 - 4	家庭科における「生活と睡眠」の学習に関する研究(第2報) - 中学生の「生活と睡眠」に対する教師の認識と学習への意見 -	滋賀大学大学院教育学研究科(院生) 滋賀大学教育学部 滋賀大学教育学部	高井 美沙 山崎古都子 田中 宏子
<b>座長 浅井 玲子</b>			
A2 - 5	学校におけるスピリチュアル教育の可能性	上越教育大学大学院学校教育研究科	得丸 定子
A2 - 6	ペット葬はペットロス症状を軽減するか?	八王子市立石川中学校 上越教育大学大学院学校教育研究科	鈴木 智子 得丸 定子
A2 - 7	保育体験学習時における中学生の対児行動の分析	千葉大学大学院教育学研究科(院生) 千葉大学教育学部	小笠原芳子 伊藤 葉子
A2 - 8	ケアリング教育から捉え直した保育学習の検討	千葉大学教育学部附属中学校 千葉大学教育学部	鎌野 育代 伊藤 葉子
<b>座長 田中 弘子</b>			
A2 - 9	幼児とのふれ合い体験に関する幼稚園・保育所側の意識	東京学芸大学教育学部 千葉大学教育学部 信州大学教育学部 白梅学園大学子ども学部	倉持 清美 伊藤 葉子 岡野 雅子 金田 利子
A2 - 10	中等学校家庭科授業開発研究(第7報) - 中学校必修教科「技術・家庭(家庭分野)」における Flour Baby Project の実践と検討(Ⅲ) -	岡山大学教育学部附属中学校 岡山大学教育学部附属中学校 岡山大学教育学部	原田 省吾 小橋 和子 佐藤 園

A2 - 11	中等学校家庭科授業開発研究(第8報) - 高等学校「家庭総合」における Flour Baby Project の実践と検討 -	岡山大学大学院教育学研究科(院生) 岡山大学大学院教育学研究科(院生) 岡山県立岡山南高等学校 岡山県立岡山南高等学校 岡山大学教育学部	平田美智子 河原 浩子 砂田 裕子 橘高 知美 佐藤 園
---------	---	--	--

**[6月30日 午前] 9:00~11:30 第3会場(402)**

**座長 夫馬 佳代子**

A3 - 1	高等学校家庭科教育における家庭科技術検定の現状と今後の課題(第1報) - 検定既得の卒業生の技術検定役立ち感について -	千葉大学大学院教育学研究科(院生) (都立小松川高等学校) 千葉大学教育学部	亀井 佑子 佐藤 文子
A3 - 2	家庭科における簡易科学実験・体験プログラムの構築(1)	お茶の水女子大学ライフワールドウォッチセンター	佐藤 典子
A3 - 3	聾学校中学部生徒の調理実習におけるパソコン教材の作成	筑波大学附属聾学校	有友 愛子
A3 - 4	中学校家庭科の調理実習における対話の分析	広島大学大学院教育学研究科(院生) 広島大学大学院教育学研究科	一色 玲子 鈴木 明子

**座長 赤崎 真弓**

A3 - 5	調理実習における教師と生徒の関係 - 教師と生徒の実習中の会話(やりとり)から -	埼玉大学大学院(院生) 埼玉大学教育学部	佐藤 千秋 河村 美穂
A3 - 6	家庭科的な視点を取り入れた生活科における体験的学習 こんにやく作りの授業実践を例として	横浜国立大学教育学研究科(院生)	岡野 雅子
A3 - 7	望ましい食生活を志向した実感的な学び - 五感を活用した味覚教育を通して -	千葉大学大学院教育学研究科(院生) 千葉大学教育学部	佐野あゆみ 佐藤 文子

**座長 林 未和子**

A3 - 8	中学校家庭科における味覚教育	上越教育大学大学院(院生) 上越教育大学 上越教育大学(非常勤) 上越教育大学附属中学校	武藤 弓子 得丸 定子 布川 和恵 竹内 美穂
A3 - 9	給食調査にみられる小学生の栄養素等摂取の現状 - 小学校家庭科授業開発に関する基礎的研究(III) -	岡山大学大学院教育学研究科(院生) 東京都八王子市立浅川小学校 岡山大学教育学部 岡山大学教育学部	西谷 圭二 伸清亜希子 河田 哲典 佐藤 園

A3 - 10	高校生の生活実態から構築する食生活領域のカリキュラム	東京都立大崎高等学校(非) 東京都立小松川高等学校(嘱託) 横浜国立大学教育人間科学部 東京学芸大学附属小金井中学校 東京都立江戸川高等学校 東京都立足立東高等学校 東京都立小山台高等学校	江見 直子 亀井 佑子 金子佳代子 佐藤 麻子 佐藤真紀子 三野 直子 吉澤亜紀子
---------	----------------------------	--	---

**【7月1日 午前】 9:00～11:00 第1会場(417)**

**座長 得丸 定子**

B1 - 1	九州・沖縄の「生活課題」「生活文化」にかかわる家庭科授業実践に関する研究 - 第2報 実践事例報告からみた家庭科の授業の現状と課題 -	琉球大学教育学部 琉球大学教育学部 宮崎大学教育文化学部 大分大学教育福祉科学部 鹿児島県立短期大学生生活科学科 鹿児島県立湧心館高等学校 宮崎大学教育文化学部 熊本大学教育学部 熊本大学教育学部	國吉 真哉 浅井 玲子 伊波富久美 久保加津代 倉元 綾子 立山ちづ子 福原 美江 宮瀬美津子 桑畑美沙子
B1 - 2	九州・沖縄の「生活課題」「生活文化」にかかわる家庭科授業実践に関する研究 - 第3報 学習者自身の生活課題に対する視点を中心に -	宮崎大学教育文化学部 琉球大学教育学部 琉球大学教育学部 大分大学教育福祉科学部 鹿児島県立短期大学生生活科学科 鹿児島県立湧心館高等学校 宮崎大学教育文化学部 熊本大学教育学部 熊本大学教育学部	伊波富久美 浅井 玲子 國吉 真哉 久保加津代 倉元 綾子 立山ちづ子 福原 美江 宮瀬美津子 桑畑美沙子
B1 - 3	小・中・高を通じた家庭科学習者の家庭科及び家庭生活の意識・実態 - 教員養成系及び多種分野の大学生調査より -	福島県立平養護学校  福島大学人間発達文化学類	佐々木 涉  浜島 京子
B1 - 4	リスク管理に焦点をあてた生活設計教育 - 人生すごろく作りを通して -	千葉県立流山南高等学校 千葉大学教育学部	仲田 郁子 久保 桂子

**座長 長澤 由喜子**

B1 - 5	家庭科教育におけるキャリア教育の追究	山梨大学教育人間科学部	志村 結美
--------	--------------------	-------------	-------

B1 - 6	食物系四年制大学にみるキャリアパスに関する学生の意識とその課題	くらしき作陽大学食文化学部	山本 奈美 渡邊 照美 橋本 香織 諸岡 浩子 高木 弘子 長石 啓子 中村喜久江
B1 - 7	私立大学における家政・生活科学系学部のキャリア教育の動向(第1報) - 学部名称に焦点をあてて -	くらしき作陽大学食文化学部	渡邊 照美 橋本 香織 山本 奈美 諸岡 浩子 高木 弘子 長石 啓子 中村喜久江
B1 - 8	私立大学における家政・生活科学系学部のキャリア教育の動向(第2報) - 取得可能資格に焦点をあてて -	くらしき作陽大学食文化学部	橋本 香織 渡邊 照美 山本 奈美 諸岡 浩子 高木 弘子 長石 啓子 中村喜久江

**【7月1日 午前】 9:00～11:00 第2会場(401)**

**座長 野田 文子**

B2 - 1	共生・共同の意識を育む家庭科学習の可能性 - 「未来志向の教育」の視点を取り入れた授業実践 -	横浜国立大学教育人間科学部附属鎌倉小学校	織井 美雪
B2 - 2	高等学校普通教科「家庭」において高齢社会を扱う視点と課題 - 「高齢者の生活と福祉」に関わる教科書の記述の分析を通して -	横浜国立大学大学院教育学研究科(院生) 横浜国立大学教育人間科学部	竹内 千春 鈴木 敏子
B2 - 3	高校生からみた祖父母の機能と高齢者に関する学習経験の関連	福岡教育大学	貴志 倫子
B2 - 4	大学生における異世代交流教育授業の効果	白梅学園大学子ども学部	林 薫 金田 利子

**座長 鈴木 洋子**

B2 - 5	異年齢による実践力を高め合う家庭科「交流授業」における学習方法の開発(第1報)	筑波大学大学院人間総合科学研究科 筑波大学附属小学校 筑波大学附属中学校 筑波大学附属中学校	木村 範子 勝田 映子 工藤 悦子 小林 美礼
--------	---	---	----------------------------------



B2 - 6	異年齢による実践力を高め合う家庭科「交流授業」における学習方法の開発(第2報)	筑波大学大学院人間総合科学研究科 筑波大学附属小学校 筑波大学附属中学校 筑波大学附属中学校	木村 範子 勝田 映子 工藤 悦子 小林 美礼
B2 - 7	子どもの家事労働と子どもの自己効力感との関連 - 親の養育態度に注目して -	千葉大学大学院教育学研究科(院生)	池原 優希
B2 - 8	ジェンダー観・性別役割分業意識の変容を促す授業教材の検討	法政大学中学高等学校 東京学芸大学	富田 道子 大竹美登利

**【7月1日 午前】 9:00～11:00 第3会場(402)**

**座長 柴 静子**

B3 - 1	素材の違いに応じた洗い方を指導するための教材開発とその授業研究 - 小学生を対象とした「ぬいぐるみ」の洗濯実習 -	信州大学教育学部	福田 典子
B3 - 2	中学校衣生活領域の「自分らしい着方」の扱いについて	東京学芸大学 教育学研究科(院生) 東京学芸大学教育学部	畑山真智子 鳴海多恵子
B3 - 3	「家庭基礎」衣生活領域における授業展開の探究 - 新しい視座から衣生活領域を組み立てる -	東京都立町田高等学校 東京学芸大学教育学部	松橋由紀美 鳴海多恵子
B3 - 4	家庭科の製作課題への意識に及ぼす動機づけスタイルの影響	呉市立呉高等学校 広島大学大学院教育学研究科(院生) 広島大学大学院教育学研究科	武田 幸子 一色 玲子 鈴木 明子

**座長 伊波 富久美**

B3 - 5	高等学校家庭科「染色」取り扱いの変遷についての調査	北海道北見緑陵高等学校 北海道教育大学大学院教育学研究科(院生) 北翔大学人間福祉学部(非) 北海道教育大学札幌校	駒津 順子  小松恵美子 森田みゆき
B3 - 6	調理操作の定着を志向した調理実験の効果	佐倉市立白井南高等学校 千葉大学教育学部	渡辺 秀子 佐藤 文子
B3 - 7	中学生の自由献立による調理実習と調理技術についての研究(5)	東京女子学園中学・高等学校 秋草学園短大	小島 章子 平山 素子
B3 - 8	帰国生の食生活の現状と課題	東京学芸大学大学院(院生) 東京学芸大学教育学部	山崎 真澄 池崎喜美恵

【ポスター発表】

【7月1日 11:10～12:30】 416室 (掲示は6月30日12:50～7月1日15:00)

P 1	子どもたちの問題状況に家庭科はどう応えるか	埼玉大学 宇都宮大学 群馬大学 都立小松川高等学校 山梨大学 横浜国立大学 埼玉大学	河村 美穂 赤塚 朋子 上里 京子 亀井 佑子 志村 結美 堀内かおる 吉川はる奈
P 2	現職教員のための家庭科スキルアップ研修プログラム開発に関する研究	北海道教育大学旭川校	川邊 淳子
P 3	子どもの学びを創り出していく中学校家庭科の授業	信州大学教育学部附属松本中学校 信州大学教育学部	熊谷有紀子 松岡 英子
P 4	家庭科教育における世代間交流とエイジング学習に関する研究	福島大学人間発達文化学類	角間 陽子
P 5	学習活動の違いによる高校生の性役割観の変容	弘前大学教育学部	日景 弥生
P 6	教員養成大学における実践的研究 - 小学校家庭科担当能力の育成をめざして -	高知大学教育学部	菊地るみ子
P 7	中国内モンゴルの中学生の家庭生活実態	群馬大学	来小 渡邊 彩子
P 8	意思決定プロセスを導入した授業における生徒の学びの可能性	静岡県三島市立山田中学校 静岡大学教育学部 静岡県榛原郡吉田町立自彊小学校	西島 真美 吉原 崇恵 松村千有紀
P 9	KYT シートによる家庭科の実習授業における危険回避力育成の有効性	静岡大学教育学部	吉原 崇恵
P10	「物語形式」を取り入れた中学校「家庭生活と消費」題材の授業実践研究 - 教員養成学部と連携協力校の協働による -	静岡大学教育学部 静岡県立浜松江ノ島高等学校 静岡市立安東中学校	小川 裕子 橋爪 結加 小澤 裕代
P11	家庭科での「消費行動と環境」に関する授業研究 - オリジナル環境ラベルの作成を通して -	高知県立高知小津高等学校	前野佐希子

P12	島ならではの授業の工夫 - 小・中学校の例 -	文教大学	杉山 由紀 石井智恵美
P13	アメリカ合衆国における食習慣と学校食物教育について	文教大学	石倉 菜穂 石井智恵美
P14	教師自身による調理実習の分析的評価の試み - 調理実習を教師自身が評価する視点 -	東京家政学院中学校・高等学(非) 海城高等学校(非) 埼玉大学教育学部 長崎大学教育学部 お茶の水女子大学附属中学校(非) 東京都立中野工業高等学校 千葉県立流山南高等学校 女子学院中学校・高等学校(非) 日本工業大学付属東京工業高等学校(非) 三輪田学園(非) 本郷中学校高等学校(非) 東京都立飛鳥高等学校(非)	良 香織 小倉 礼子 河村 美穂 小清水貴子 千葉 悦子 仲井 志乃 仲田 郁子 中村恵美子 野田登志子  松井 洋子 松岡 文子 山本 光世
P15	生徒の実態を踏まえた食領域のカリキュラムの提案	埼玉県立秩父農工科学高等学校	奥 千加
P16	学校における食教育の実態とその意識について	弘前大学教育学部	齋藤 尚子
P17	五感を使って味わい方を学ぶ授業の検討	新潟大学教育学研究科(院生) 新潟大学教育人間科学部	堀 希代子 高木 幸子

## 特 別 企 画

### シンポジウム

6月29日(金)14:00~16:30 417室

家庭科教育の継承と発展 くらしをみつめ、くらしを豊かにする学びをとおして

シンポジスト 武藤拓也(鹿児島国際大学)

赤塚朋子(宇都宮大学)

松田(分校)淑子(福井大学、元金沢大学附属高校)

望月昌代(文部科学省)

コーディネーター 大竹美登利(東京学芸大学)

武藤氏に教育学における家庭科の位置づけを歴史的視点もふまえて整理していただき、赤塚氏がそれを受けて家庭科教育が抱える現代の課題を明らかにします。さらに松田氏に、教育現場から家庭科の現代の課題と今後の展開を提案して頂き、望月氏から国の教育の方向をふまえつつ家庭科の発展の方向を提示して頂くというように、それぞれの立場から継承と発展というテーマに迫り、多様な立場からの意見を交錯させながら、未来を拓く家庭科教育の発展の方向性を明らかにします。

### ト - クセッション

6月30日(土)14:00~15:50 417室

[ 家庭科のここがおもしろい ! ]

作家 重松 清氏 と 家庭科教育研究者 望月 一枝氏(秋田大学)

重松氏のご著書『教育 とはなんだ』の中で、「家庭科にまさる大きな 革命的とさえ呼べそうな変貌を遂げた教科はないはずだ、と思っている...家庭科の教科書をめくって...まいった。おもしろいのだ、すごく。」と書かれています。様々な問題を抱えたどこにでもありそうな家族を登場させて描く重松氏の家族へのまなざしを、家族やジェンダーに関する実践を切り開いてきた望月氏との対談を通して学び、家庭科の未来をみつめたいと思います。

家庭科教育関係者のみならず一般の方も一聴に価するトークです。ふるってご参加ください。

(問い合わせ先：鶴田敦子・聖心女子大学)

## 課題研究

本企画は、「子ども自身が生活を『つくる』ための家庭科の学びとはどんなものか?」「男女がともに学ぶ家庭科で培いたい学力とは何か?」「子どもの批判的思考力をどう鍛えるか?」など、家庭科にとって重要な課題をメインテーマとした3つのセッションを設定し、それぞれのセッションで、討議を深めることを目的としています。

各セッションでは、あらかじめ依頼した話題提供者・指定討論者とフロアの参加者とが、対等な立場で考え、発言し、一緒になって議論を深めることを目指します。

皆様の積極的な参加をお待ちしています。

### 第1セッション「生活をつくる(作る・営る・創る)家庭科の学び

#### ブックレットシリーズを通じて何を伝えるか

6月30日(土)16:00~18:00 417室

ブックレットシリーズでは、「生活をつくる」ことが、実際にはさまざまな側面をもっていることを、「作る」「営(つく)る」「創る」という言葉で表し、第1巻では、「作る」を「生活スキル」、第2巻では「営(つく)る」を「安全・安心(ウェルビーイング)」、「創る」を「シティズンシップ」から捉え、複合的で多面的な生活を「つくる」ために家庭科が構築してきた理論を集約し、積み上げられてきた実践を読み解いています。

本セッションでは、各巻の編者が話題提供者となり、指定討論者によって、家庭科のこれからの課題との切り結びという意味での問題点を提示してもらいます。フロアとの意見交換を通して、家庭科のこれまでの「生活をつくる」学びの実績を再確認するとともに、これからの方向性を探っていきたいと思います。

指定討論者	菊地るみ子(高知大学)
	濱崎タマエ(東京都練馬区立田柄第二小学校)
話題提供者	青木香保里(天使大学)
	長澤由喜子(岩手大学)
	朴木佳緒留(神戸大学)
コーディネーター	伊藤葉子(千葉大学)

### 第2セッション「家庭科が育てる力を探求する - 高等学校男女必修の成果に

#### 関する生徒・社会人・教師への全国調査から - 」

7月1日(日)13:00~15:00 417室

小・中・高等学校を通して家庭科が男女必修になってから10年余を経ました。この間、男女がともに学ぶ家庭科が生活自立と共生の力の育成にどう貢献し育てようとしたかなど、学ぶ立場と教える立場から特別委員会が調査した結果をもとに、成果と課題を検討します。そして、家庭科における「生活に生きて働く力」をどのように考えていくかについているるな角度から討論します。

話題提供者	河野公子(聖徳大学)	鈴木明子(広島大学)
	渡瀬典子(岩手大学)	中西雪夫(佐賀大学)
	福田典子(信州大学)	

指定討論者 小高さほみ（秋田大学） 浜島京子（福島大学）  
コーディネーター 渡邊彩子（群馬大学）

### 第3セッション 「家庭科教育における批判的思考力の育成」

7月1日(日)13:00～15:00 401室

家庭科では、問題解決力や合理的な意思決定ができる実践力の育成を重視しています。第3セッションでは、こうした力の背景にある批判的思考（critical thinking）スキルについて取り上げます。家庭科における批判的思考スキルの先駆的研究者である、米国オハイオ州立大学のジャネット・F・ラスター博士の基調講演に続き、指定討論者による理論的・実践的報告を行います。それらを受けて、参加者全員でテーマについて話し合います。

家庭科の授業づくりにおける新しい“視点”として、批判的思考スキルの育成について考えてみませんか？

1. 基調講演：米国およびオハイオ州の家庭科における批判的思考力の育成

講師 ジャネット F. ラスター 博士 （オハイオ州立大学）

2. 指定討論者による報告

「日本の家庭科における批判的思考力の育成」荒井紀子（福井大学）

「中学校の教育現場より」

山崎陽江（富山大学附属中学校）

「高等学校の教育現場より」

河岸美穂（金沢伏見高等学校）

コーディネーター

鈴木真由子（大阪教育大学）

井元りえ（福岡工業大学）

（問い合わせ先：荒井紀子・福井大学）

### ワ-クショップ

“ワークショップ”とは、講義のような一方的な知識伝達のスタイルとは異なり、参加者が自ら活動しグループの中で関わり合うことを通して、何かを学び新たな気づきを得る「双方向的な学びと創造のスタイル」です。今回は、3つの異なるテーマのワークショップを開催します。

#### ワ-クショップ フードマイレージを利用した食育

6月30日(土)16:00～18:00 401室

講師：中田哲也氏（九州農政局消費安全部消費生活課課長）

食物の輸送量に輸送距離を乗じて求められる「フードマイレージ」は、輸送距離が環境に与える負荷を定量的に把握すること等を目的に開発された指標です。開発者である中田哲也氏を講師に迎え、フードマイレージの考え方を学び、家庭科授業への適用についてグループワークを通して検討します。

#### ワ-クショップ 幼児とうまく関わる技を磨く

6月30日(土)16:00～18:00 402室

講師：井口眞美氏（東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎教諭）

家庭科の保育体験学習で幼稚園や保育園を訪問する機会が増えています。訪問にあたり、おもちゃをつくる学習もよく行われています。本ワークショップでは、幼児との実りの多い

関わりを持つことができるよう、ヒントとなる手遊びや童歌、伝承遊びや小物などについて、幼稚園教諭を講師に招き、その作り方や遊び方などを具体的に活動しながら学びます。

### ワークショップ 体験的「参加型学習」入門～ジェンダーをテーマとして

7月1日(日)13:00～15:00 402室

講師：特定非営利活動法人 ERIC 国際理解教育センター・専属ファシリテーター

他者との協同・共同の活動を通して様々な気づきを得る「参加型学習」は、生活に目を向け学習者の気づきを促すような家庭科の授業づくりに有効です。人権教育や環境教育、開発教育で取り入れられる「参加型学習」について、特にジェンダーの視点に基づくワークショップを通して、実践的に学びます。

#### <参加申し込み方法>

各ワークショップに参加ご希望の方は、参加希望のワークショップ名、お名前、ご所属、ご連絡先メールアドレス、ご連絡先電話番号およびファックス番号、ご連絡先住所をご記入の上、メールもしくはファックスで下記までお申し込みください。お申し込みを受理しましたらメールまたはファックスにて返信のご連絡をいたしますので、しばらく返信がない場合には、お問い合わせください。

先着順に受け付け、定員になり次第、参加者を確定させていただきます。もしも、申し込まれたあとに参加できなくなった場合には、至急、下記までキャンセルのご連絡をお願いします。なお、事前申し込みで定員に満たなかったワークショップについては、学会当日の受付もいたします。

定員確定後に参加を希望する方は、オブザーバーとして会場へ入場することはできますが、グループワークに参加することはできませんので、ご了承ください。

(問い合わせ先：堀内かおる・横浜国立大学)

E-mail:kao@ynu.ac.jp Tel/Fax: 045-339-3303)

### ラウンドテーブル

7月1日(日)15:10～17:10

ラウンドテーブルの主役は、小・中・高で家庭科を担当する教師たちです。各ラウンドテーブルのテーマに基づく話題提供者の先生による報告を受けて、テーマに関する家庭科教育実践の課題について考え合っていきます。今、学校現場ではカリキュラムが見直されたりして、家庭科としては大変厳しい時代です。このラウンドテーブルが“現場の教師が元気になる”活発な議論の場となり、あすの授業作りの栄養補給の場となることを願っております。

### ラウンドテーブル 「食の学びを再構築する - これまでとこれから - 」 401室

食に関する学びは、生きていく上で重要な学びです。最近のブームのような食の扱われ方に、違和感をお持ちの方も少なくないことでしょう。家庭科の蓄積を生かし、今の子どもたちの生活実態にあった、食の学びを考えませんか？栄養教諭・総合学習など変化していく様々な教育現場を想定することも大切でしょう。児童生徒の実践につながる授業をみんなで作り出しましょう。

#### 話題提供者

- ・望月一枝 相場郁子（秋田大学教育文化学部）  
「バイキングトレイゲームと食材ボックスの教材開発」
- ・西島真美（静岡県三島市立山田中学校）  
「何を食べているのかから始まりどのように食べていくのかを考える授業」（仮題）  
コーディネーター 金子佳代子（横浜国立大学） 中村喜久江（岡山大学）

#### ラウンドテーブル 「生活のスキルを育む - もの、人との関係を作る - 」 402 室

現代の子どもたちはものを大切にしない、人との関わりが持てないといった大きな課題を抱えています。家庭の教育力の低下が言われますが、生活様式や産業構造の変化を認めないまま、家庭の教育力の復権だけを叫んでも解決策はないでしょう。この課題に対応するためには地球資源や環境に目を向けたり、人との関わりの中で社会性を育んだりすることが大切だと考えられます。家庭科教育がこれらの課題とどのように関わってきたのかを考え、生活スキルの向上と実践化に迫るための議論の場としましょう。

#### 話題提供者

- ・川村めぐみ（千葉大学大学院教育学研究科）  
「『人と折り合いをつける力』を高める指導の試み」
- ・松野可奈子（神奈川県立追浜高等学校）「少子高齢化社会の住まい・住環境を考える学習」  
コーディネーター 上里京子（群馬大学） 金田利子（白梅学園短期大学）

#### ラウンドテーブル 「授業研究のあり方を探る - 子どもの変容に注目して - 」 403 室

「こんな実践をしました。」「お疲れ様でした。」に終わらない、授業者自身、参観者、そしてもちろん、子どもにとっても得るもののある授業研究とは、どのようにしたらよいのでしょうか？今大会では授業を受けている子どもの変容に注目して、現場における授業研究の方法論を多岐にわたって考えたいと思います。授業の組み立て方、評価とその分析方法、参観の方法、事後の研究協議会の持ち方等についてアイデアを持ち寄り、交流してみませんか。

#### 話題提供者

- ・神山久美（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）
- ・酒井育子（静岡県浜松市立篠原小学校）  
「『だから家庭科はおもしろい』と子どもが声を上げる授業の組み立て」（仮題）
- ・伊深祥子（埼玉県さいたま市立木崎中学校）  
「家庭科の授業研究の方法をさぐる」  
コーディネーター 高木直（山形大学） 山田綾（愛知教育大学）

#### < 申し込み方法 >

事前申し込みの話題提供者以外の参加者の皆様にも、可能な方には当日資料等をお持ちいただき、情報の交換の場としたいと思います。もちろん、資料等なしの参加も大歓迎です。

（問い合わせ先：亀井佑子 E-mail: [aag13540@pop02.odn.ne.jp](mailto:aag13540@pop02.odn.ne.jp)  
Fax: 048-928-6329



## ポスタ - による 50 年の学会活動史

6 月 30 日 ~ 7 月 1 日 416 室

戦後、家庭科教育がスタートして 60 年、家庭科教育学会が設立されて 50 年たちます。この間に子どもたちをとりまく状況は変わり、家庭科教育も大きく変化してきました。ポスターによる学会活動史では、

1. 家庭科教育にとって重大な出来事について、当時を知る方の証言を集めました。
2. 石毛フミ子先生、木村温美先生に学会活動について振り返っていただき、今後の学会活動へのご提言をいただきました。

\* 学会活動を中心として家庭科教育に関連する出来事を年表にし、1、2 もあわせて掲示します。  
( 問い合わせ：河村美穂・埼玉大学 )

## 50 周年記念式典

6 月 29 日 ( 金 ) 13:00 ~ 13:50 417 室

日本家庭科教育学会の創立 50 周年を記念して、会員の皆様とご一緒にこの半世紀を振り返り、果たしてきた役割を再認識してこれからを考えるきっかけにしたいと存じます。また、この間、会の活動に多大なご貢献をいただいた先輩の方々をご紹介します、功労賞を贈呈いたします。多くの方のご出席により盛大な式典を！

## 50 周年記念祝賀会のご案内

日時 6 月 29 日 ( 金 ) 17:00 ~ 19:00  
会場 国際交流棟 レセプションホール  
会費 事前申込：5,000 円

全国からお集まりになった皆様方と 50 周年を祝い、また、各地の情報交換をしながら懇親を深めたいと存じます。多数のご出席をお待ちしております。

( 大会実行委員会・河野 )

## 研究発表をされる方への連絡事項

### 【口頭発表】

1. 配布される資料は、発表番号と氏名を明記し、必ず 200 部用意して当日早めに受付までご提出ください。
2. 研究発表の時間は 12 分、質疑応答の時間は 2 分です。質疑のない場合は 14 分まで発表できます。この時間には資料配付も含んでいます。発表時間が厳守されないスケジュールが乱れますから、是非ご協力をお願いいたします。
3. 発表時間 10 分経過後に第 1 鈴、12 分経過後に第 2 鈴、14 分経過後に第 3 鈴をもって終わりの合図とします。
4. 同一題目で連続して発表される場合には、質疑を最後にまとめることがありますので、ご了承ください。
5. 研究発表中止の場合、できるだけ早めに連絡してください。その後の発表の繰り上げはしません。(会場に電話をすることができませんので、学会当日は参加する方に連絡をとるなどして本部にお知らせくださるようお願いいたします。)

### 【ポスター発表】

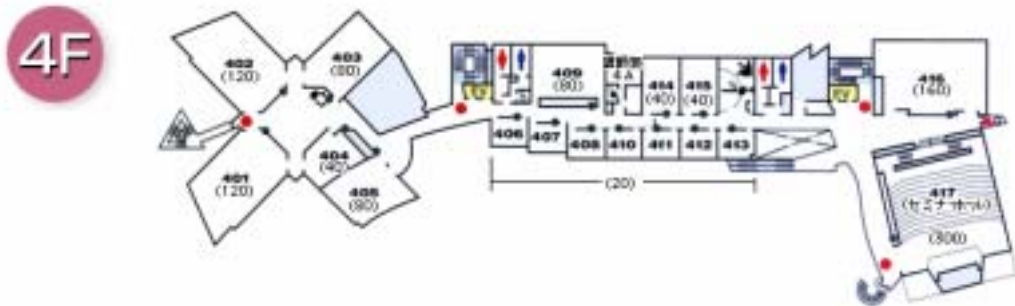
1. 発表 1 題につき、パネル 1 枚(横 90 cm×縦 210 cm)です。発表者は指定されたパネルに、説明文、図、表、写真など、自由にレイアウトしてください。
2. 演題目、所属、氏名の表示は、上部 20 cm 程度で、各発表者が準備してください。
3. ポスター発表は、7 月 1 日(日) 11:10～12:30 です。発表者はこの時間帯にポスターの傍らに待機してください。
4. ポスター設営の際、会場で受付をすませてください。
5. 設営・展示は 416 室です。6 月 30 日(土) 12:00～12:50 に行ってください。(これ以外の時間は係員がいません。)
6. ポスターを貼るピン・画鋏は各自でご用意ください。
7. ポスターの撤収は 7 月 1 日(日) 15:00 に各自で行ってください。

## オリンピック記念青少年総合センター 建物配置図



### センター棟 4階 (会場)

研修室内での飲食は禁じられています。



### オリンピック総合センター内のレストラン等

- カフェテリアふじ (センター棟 2階) 利用時間 7:00~9:00, 11:30~13:30, 17:00~19:00
- カフェ・フレンズ (センター棟 2階) 8:00~19:00
- レストランとき (カルチャー棟 2階) 11:30~21:00
- レストランさくら (宿泊D棟 9階) 7:00~23:00
- 売店 (日用品・文具・菓子) (宿泊D棟 1階) 7:30~21:50
- サービス・コーナー (コピー・FAX送信・宅配便) (宿泊D棟 1階) 7:30~21:00

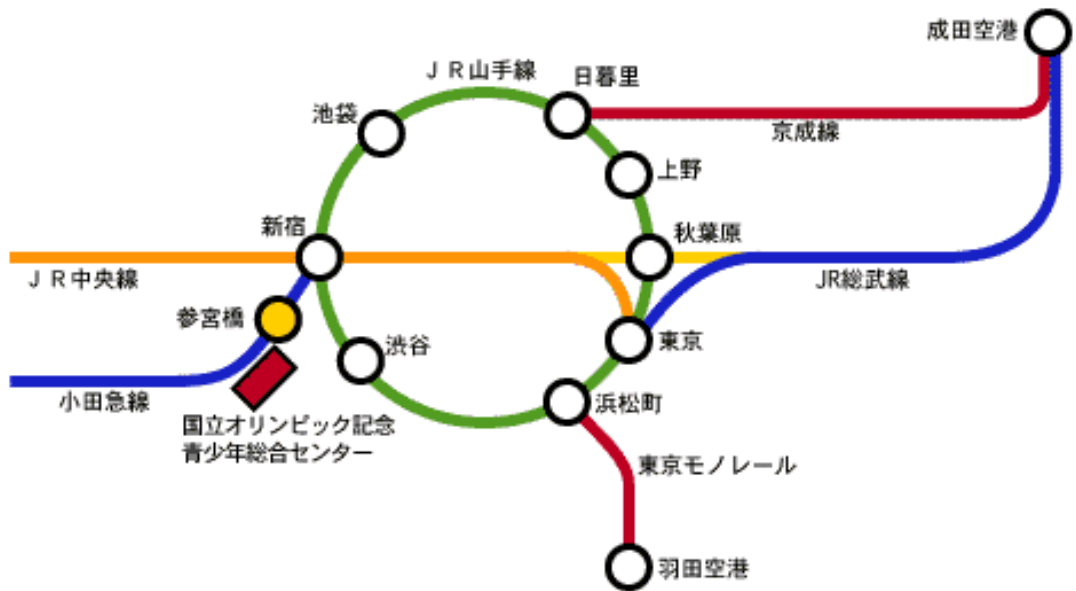
## 交通アクセス

小田急線 参宮橋駅下車 徒歩約7分

地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約10分 [代々木公園方面出口]

京王バス 新宿駅西口(16番)より

渋谷駅西口(14番)より <代々木5丁目下車>



※赤線は、参宮橋駅からの歩道橋を使った経路です。  
青線は、参宮橋駅からの横断歩道を使った経路です。